



人が人を育てる、北海道教育大学。

国立大学法人

# 北海道教育大学環境報告書

Hokkaido University of Education Environmental Report 2017

## 2017

国立大学法人 **北海道教育大学**

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

2018年9月発行

編集・発行／北海道教育大学 財務部 施設課  
〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

TEL (011)778-0247 FAX(011)778-0633

E-mail z-seibi@j.hokkyodai.ac.jp (施設課)

Sep, 2018

Edited and published by finance Division  
NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION  
HOKKAIDO UNIVERSITY of EDUCATION  
1-3, Ainosato 5-3, Kita-ku, Sapporo 002-8501

## Contents

学長メッセージ	1
大学概要	2
特集	
h ue学生プロジェクト17 -環境部門-	4 6
環境方針と環境保全推進実施体制	8
環境保全計画	9
環境保全の取り組み	10
環境汚染物質の管理と排出等について	14
環境教育活動の取り組み	16
その他の環境保全活動の取り組み	30
社会的取り組み	32

### 【報告の対象範囲】

対象範囲：北海道教育大学の全ての組織を報告対象としています。

期間：2017年4月1日～2018年3月31日※  
※一部に2017年3月以前、または2018年4月以降の情報も含めています。

### 学長メッセージ

北海道教育大学は、教員養成、人間と地域に関する文理融合型の学際的研究、芸術とスポーツによる人間性開発をあわせもつ、地域に根ざした大学を目指しています。私たちは、これらの教育研究を通じて、教師をはじめ21世紀の地域社会をリードする優れた人材を養成し、北海道全域にわたり地域と国際社会に貢献する大学として実をあげたいと願っています。

2013年には「教員養成機能における北海道の拠点」「地域や文化の価値に関する現代的・学際的探求を進めるため、現代社会の多様なニーズに応える地域人材の養成を行う」というミッションを掲げ、ミッションを達成するために様々な取り組みを進めております。今後も人間と地域の成長・発展を促す大学づくりを進め、地域になくてはならない大学をめざしていきます。

「環境報告書」は2005年に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」に基づき2005年度から、毎年公表してきました。

2009年10月には、環境保全推進に係る体制の改革を実施し、道内5キャンパスの各キャンパス長の下に教職員、学生が一体となった「キャンパス環境保全推進会議」を設置し、本学が掲げる環境保全推進計画を確実に実施するために、大学全体で取り組む体制としています。

その取り組みとして、学内ホームページにおいて、各キャンパスの電力使用量を公開し使用量を確認できるようにしたり、学生の作成による節電啓発ポスターの掲示や、不要な電気の消灯、電灯の間引きなど教職員が一体となって節電に取り組んでおります。

また、2009年3月に策定した「地球温暖化対策に関する実施計画」について、2013年7月に自己評価を行いました。



北海道教育大学長  
蛇穴 治夫

その評価結果をふまえ、2014年3月に「地球温暖化対策に関する実施計画2014」を策定し、温室効果ガス削減を目標として2014年度より2020年度にかけて実施しております。

各キャンパスには、環境保全事業についての必要経費（環境保全推進経費）の措置をするとともに、学生の自主的かつ創造的な学生企画のプロジェクトを公募し、2017年度は「h ue学生プロジェクト環境部門」として3件、2018年度は5件を採択し、環境事業に積極的に取り組んでいます。

2018年（平成30年）9月

## 北海道教育大学の教育理念

### 1 先進の人間教育

教育の活動は、人が育ち成長することへの飽くことなき関心と情熱から始まる。北海道教育大学の教育は、現代の人間と子どもについての先進的で深い知見と体験を根底に置き、人を育てることの喜びと尊さの自覚を不断に醸成する。

### 2 行動する教養

21世紀の社会と教育は、文理融合の複合的な教養、他者と積極的に関わり共存する柔軟な人間性を求めている。そのためには、芸術やスポーツを含めた多様な実践と体験に基づく、豊かで、社会に広がりを持つ人間性の育成が不可欠である。北海道教育大学の教育は、創造し行動する教養を旗印として現代の教養教育を展開する。

### 3 高い志の涵養

教育には、人のために生きる高い志が不可欠である。現代の教師には、子どもたちが抱える困難をわがこととして受け止める感受性が求められる。21世紀の地域と国際社会の諸課題への挑戦にも、同様の志が求められる。北海道教育大学の教育は、その全体を通して高い志の涵養をめざす。

## 本学位置図



### 札幌

札幌校（教育学部，大学院教育学研究科），監査室，事務局，附属図書館，国際交流・協力センター，へき地・小規模校教育研究センター，キャリアセンター，保健管理センター，教員養成開発連携センター，附属札幌小学校，附属札幌中学校，札幌駅前サテライト，アーツ&スポーツ文化複合施設，学生寄宿舍（紫藻寮，北香寮）

### 旭川

旭川校（教育学部，大学院教育学研究科），附属旭川幼稚園，附属旭川小学校，附属旭川中学校，大雪山自然教育研究施設，学生寄宿舍（築ヶ丘寮，春光寮）

### 釧路

釧路校（教育学部，大学院教育学研究科），附属釧路小学校，附属釧路中学校，学生寄宿舍（鶴ヶ岱寮）

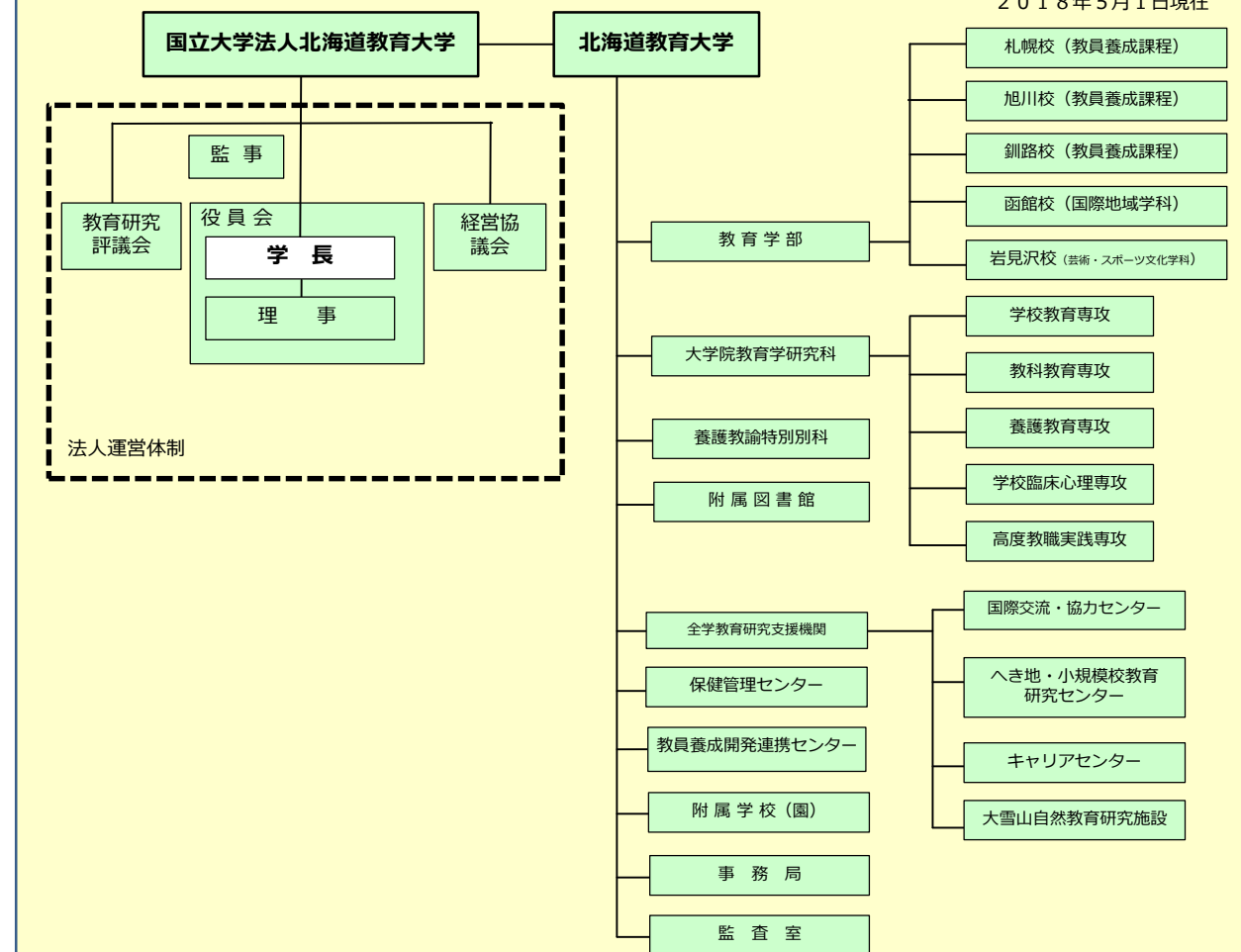
### 函館

函館校（教育学部，大学院教育学研究科，養護教諭特別別科），附属函館幼稚園，附属函館小学校，附属函館中学校，附属特別支援学校，学生寄宿舍（桐花寮，翠蔭寮）

### 岩見沢

岩見沢校（教育学部，大学院教育学研究科），学生寄宿舍（希望寮，清明寮）

## 組織図



## 職員・学生数

2018年5月1日現在

区分		人数(人)	
学 生	教育学部	5,039	( 3 )
	大学院教育学研究科(修士課程)	219	(16)
	大学院教育学研究科(専門職学位課程)	79	
	養護教諭特別別科	21	
	計	5,358	(19)
児童・生徒・園児	附属幼稚園	134	
	附属小学校	1,626	
	附属中学校	1,286	
	附属特別支援学校	57	
	計	3,103	
教 職 員	大学	386	
	附属学校	200	
	職員数	219	
	計	805	
合 計		9,266	(19)

※ ( ) 内の数字は外国人留学生を内数で示す。



学生の自主的かつ創造的な活動を支援することを目的とした「hue学生プロジェクト'17」を募集し、環境部門として3件のプロジェクト及び関連した活動を実施しました。大学からプロジェクト1件当たり年間30万円を上限とした支援を行い、学生による環境保全活動を行いました。

■ Earth Day HAKODATE 2017～こどもと自然フェス～ (実施時期：2017年4月)

－ 前年「hue学生プロジェクト'16」において採択され準備を進め実施したもの－

函館校 国際協働グループ 2年 土門寛治他 (アースデイ函館実行委員会)

環境問題、環境保護に関する市民への啓発を目的に実施のポスター製作など準備を前年度までに行い、4月23日に函館コミュニティプラザGスクエア(函館市本町)の会場で実施した。本イベントでは「こどもと自然」をメインキーワードに設定し、実施会場では「考える」「感じる」「触れる」の3つのテーマエリアに分けたことで、来場者(6,689人)には関心をもって参加していただけた。

○「考える」テーマエリア「函館から考えるこれからの環境問題」パネルディスカッション



「考える」テーマエリアでは、国際ジャーナリストによる講演会や函館校教員にも対応いただいたパネルディスカッションを通して、20代～70代までの参加者には学術的であり尚且つ誰でも親しみやすいかたちで環境問題について考えてもらった。

○【感じる】テーマエリア「五感で楽しく人のエネルギーや自然を感じてもらう」実演・展示

「感じる」テーマエリアでは、ダンスパフォーマンスやアコースティックライブの実演、オーガニックやフェアトレードにこだわった食材を使用した自然の恵みの提供、函館市環境部による環境情報のパネル展示等により来場者へ向け発信活動を行った。



○「触れる」テーマエリア「自然の素材から地球の尊さと豊かさを意識してもらおう」ワークショップ

「触れる」テーマエリアでは、来場者に自然の素材を用いた、「食べられるもの」で作る入浴剤や手作りキーホルダーなどの各種ワークショップや環境に配慮した“本物”の商品に「触れる」ことから地球の尊さと豊かさを意識してもらった。





■プロジェクトP 2017 実施報告（実施時期：2017年6月～2018年2月）

—環境保全とSDGs（持続可能な開発目標）についての理解を深める—

旭川校 社会科教育専攻 1年 根元 沙介

私たちは「プロジェクトP 2017」の活動として、JICAほっかいどう地球ひろば訪問プログラム(環境問題)を企画・実施を行いSDGsについて考察を深めた。国外では、フィリピンの教育機関と連携して3Rシンポジウムの実施など環境教育や国際理解教育の分野に相当するESD（持続可能な開発のための教育）の展開を試みた。今後も、このプロジェクトで学んだことを積極的に発信していくとともに今後の学校生活に生かしていきたい。



フィリピンでの3Rシンポジウム活動

■みんなの環境地図ワークショップ 2017 実施報告（実施時期：2017年10月）

—私たちの身のまわりの環境地図作品展ワークショップの開催—

旭川校 社会科教育専攻 2年 小川 優汰

私たちは2017年10月29日に旭川市科学館サイパルにおいて行われる「私たちの身のまわりの環境地図作品展」と開園50周年記念を迎えた旭山動物園が協力し、同動物園で小学生から高校生を対象としたワークショップを開催しました。

ワークショップでは今年の指定テーマである「エコ」を動物園内で探す活動を行いました。参加した子どもたちをグループに分けて見つけた「エコ」について意見交換を行うなどで交流し、「エコ」について深めることができました。



■育てて食べようプロジェクト 実施報告（実施時期：2017年6月～2018年2月）

—自分の食べるものを自分達で育てて、畑をつくるプロセスを学ぶ—

函館校 国際協働グループ 2年 下沢 杏奈

本プロジェクトは大学から許可を受けた構内スペースに畑を作り、自分たちの力で野菜を育てることを目的にしておりましたが、実際に地域の方にも協力をいただき畑をつくり野菜の種を植えてみましたがうまく育たないなど、育てることの難しさを改めて実感しました。

また、地域の方と畑から収穫された枝豆を使い、味噌づくりを行いました。さらに「畑づくり」を通して出会った方がたの様々なコミュニティ活動にも参加させてもらいました。今回の活動により私たちの食に対する視点や意識が変わるなど、今後の活動に大きく役に立つと思いました。



地域の方と一緒に畑づくり

味噌づくり



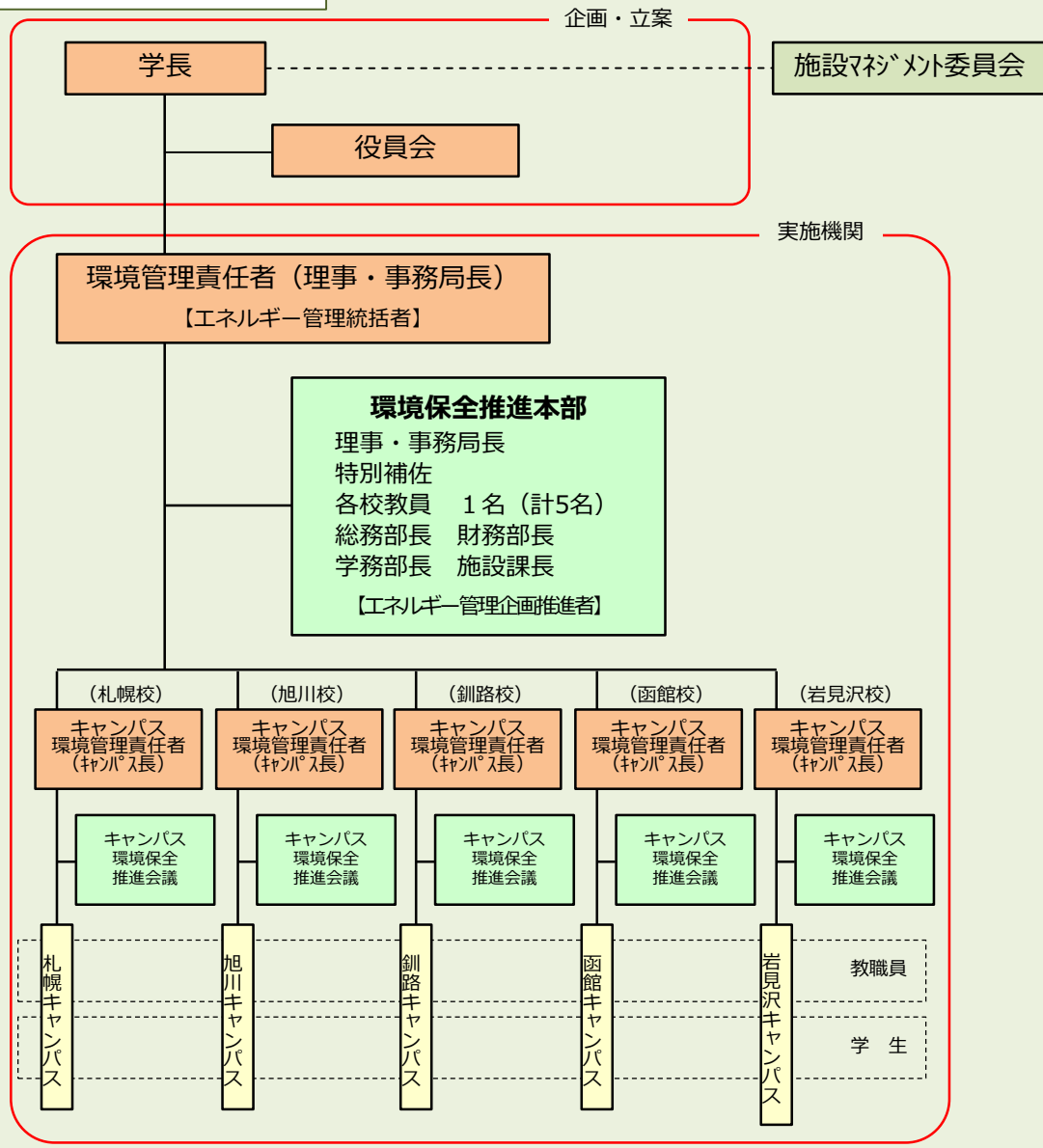
様々なコミュニティ活動に参加

本学の使命は、北海道の歴史と風土に根ざしつつ、教師をはじめ地域のための優れた人材を養成し、さらに、教育、研究及び社会貢献活動を通じて、社会の発展と人類福祉の向上に貢献することです。この使命に相応しい大学環境を構築し、環境に関わる世代間の平等を尊重する社会人の育成に努めます。

基本方針

- 本学の基本理念に基づき、各キャンパス内の全ての教職員及び学生等の協力のもとに、以下の活動を積極的に推進します。
- i 本学の特色である文系と理系の知恵を集積し、また附属学校や近隣の学校と連携し、北海道教育大学としての特長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。研究成果の普及により、地域環境及び地球環境の改善に努めます。
  - ii 教職員及び学生等全体で快適な学内環境の構築に努めます。学生の主体的な参加によって実施するために、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。  
このことにより、環境改善に資する能力を持った人材育成に努めます。
  - iii 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化及び化学物質の適正管理などにより、汚染の予防と継続的な環境改善を行います。  
これらにより環境負荷の少ない快適なキャンパスを実現します。
  - iv 本学に適用される環境関連の法令及び本学が決めた事項を守ります。

環境保全推進本部体制図



地球温暖化対策に関する実施計画2014について

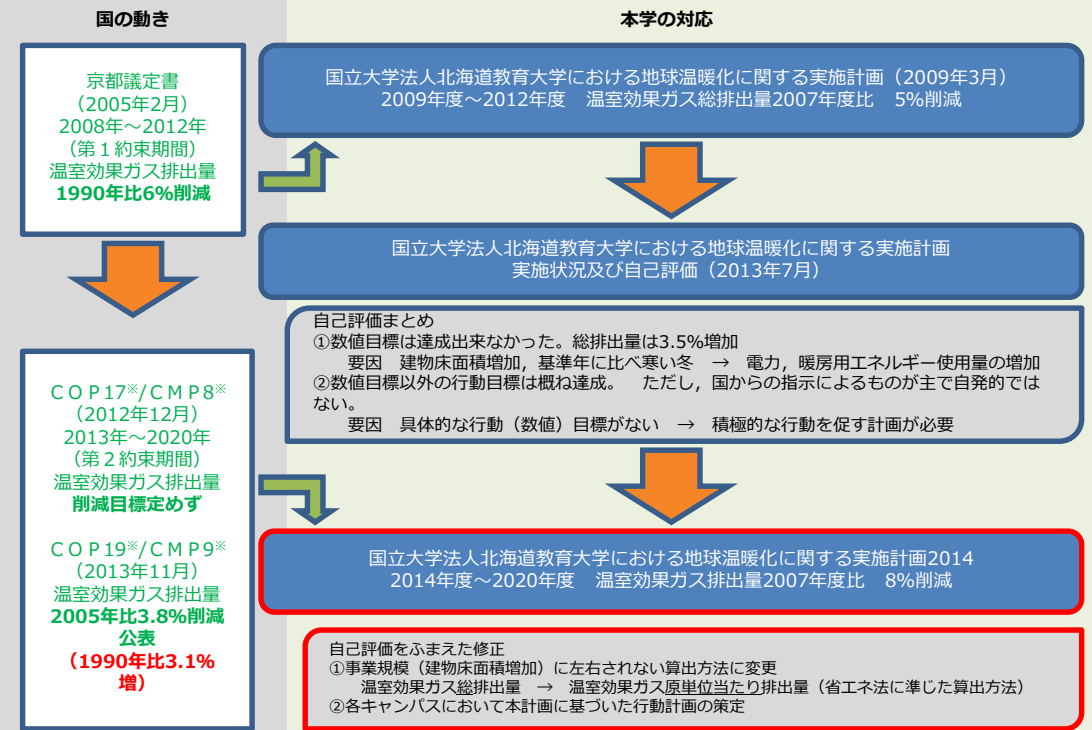
本学では、2009年3月に温室効果ガスの総排出量を、基準年を2007年度とし、2012年度までに5%削減することを目標とした「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」を策定し、目標を達成すべく努力してきました。

2013年7月に、実施計画に対する取組状況について自己評価を実施し、国の動向を踏まえ、新たに「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画2014」を策定し、2020年度までに温室効果ガス排出量を8%（原単位当たり）削減するなどの目標を定めました。

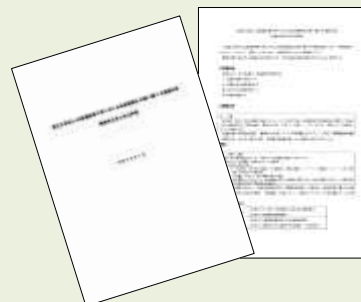
詳細については、下記アドレスにてご覧になれます。

URL: <http://www.hokkyodai.ac.jp/intro/chikyundanka.html>

地球温暖化に関する実施計画2014 概要



※COP17・19：国連気候変動枠組条約第17・19回締約国会議      CMP8・9：京都議定書第8・9回締約国会合

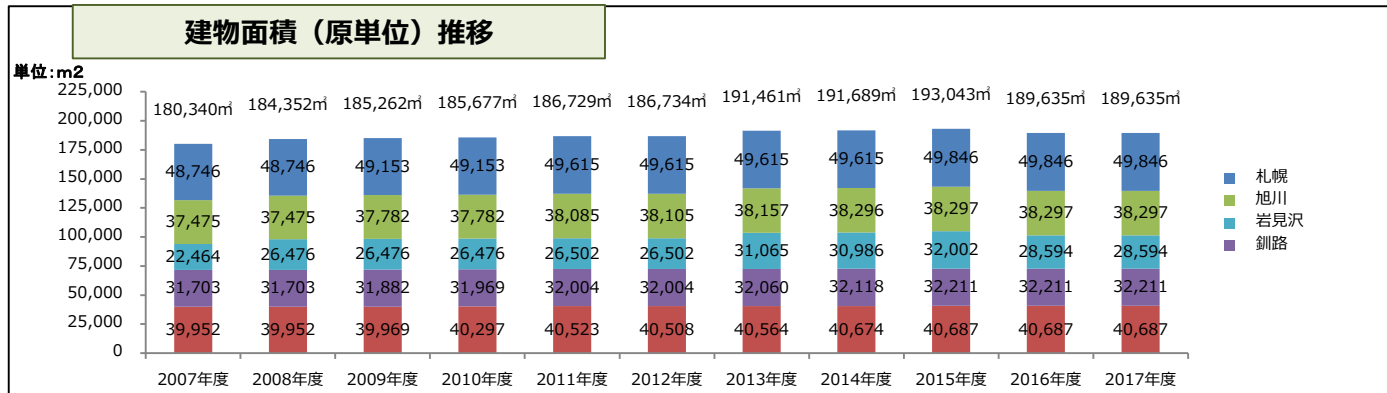
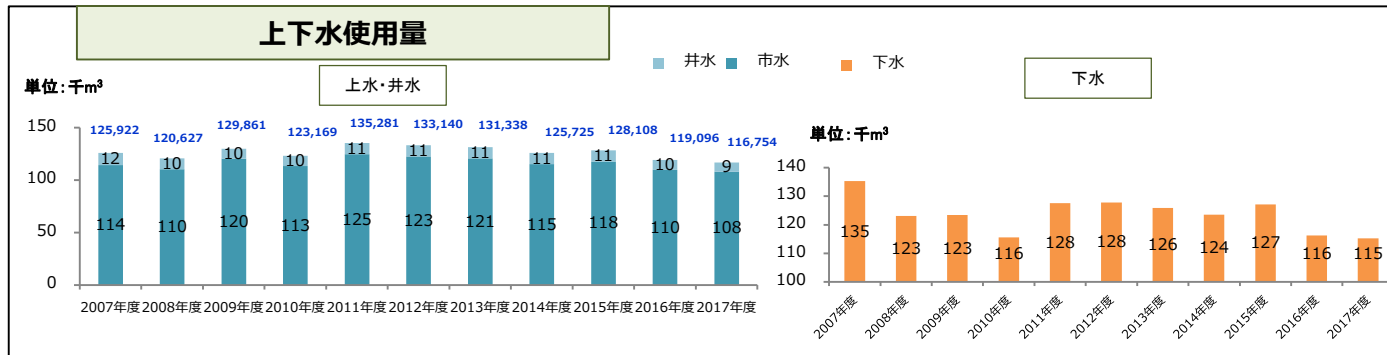
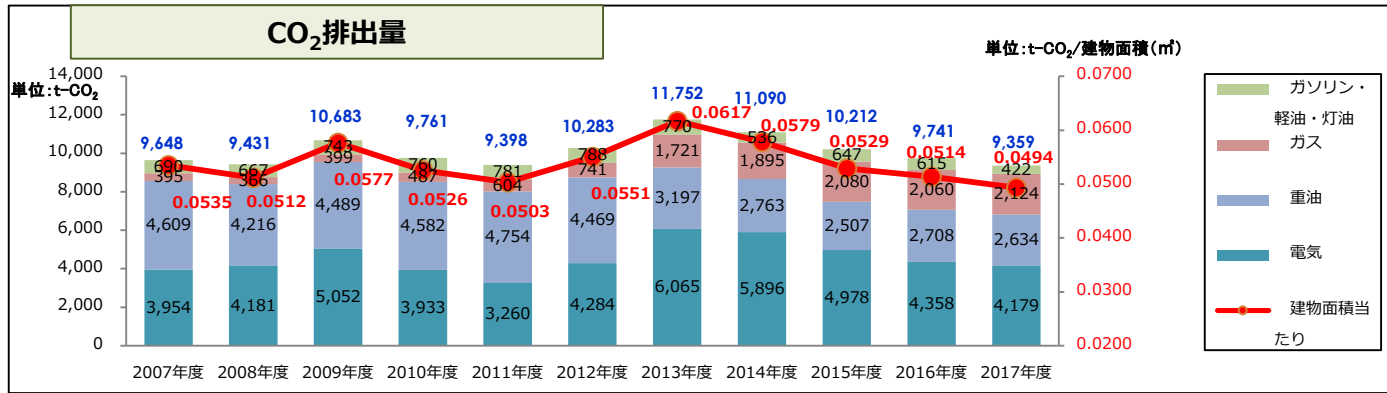
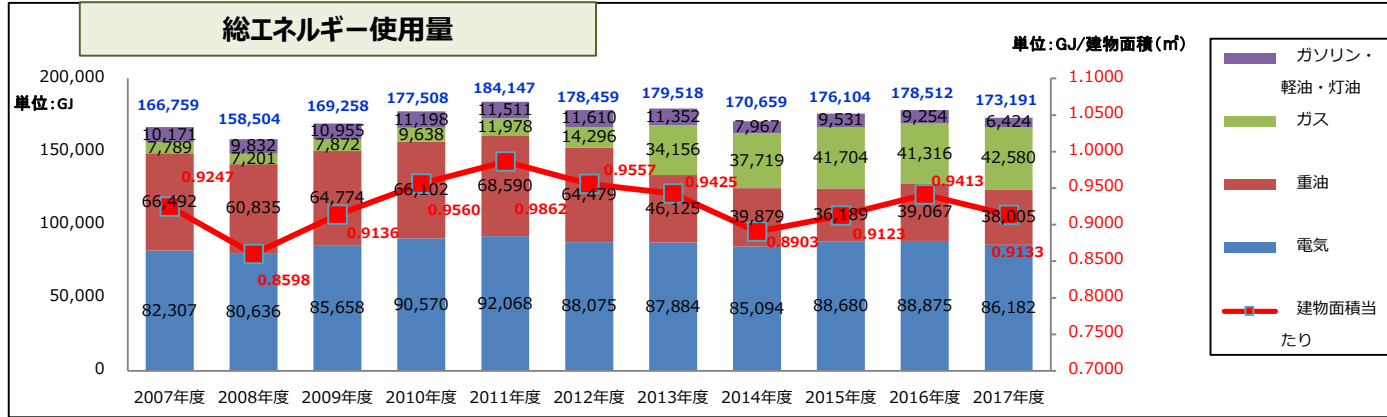


「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」は2012年度にて最終年度となり、2013年7月迄に自己評価を実施しました。結果は、数値目標では達成できませんでしたがその他の活動についての評価は、「概ね目標を達成した」となりました。



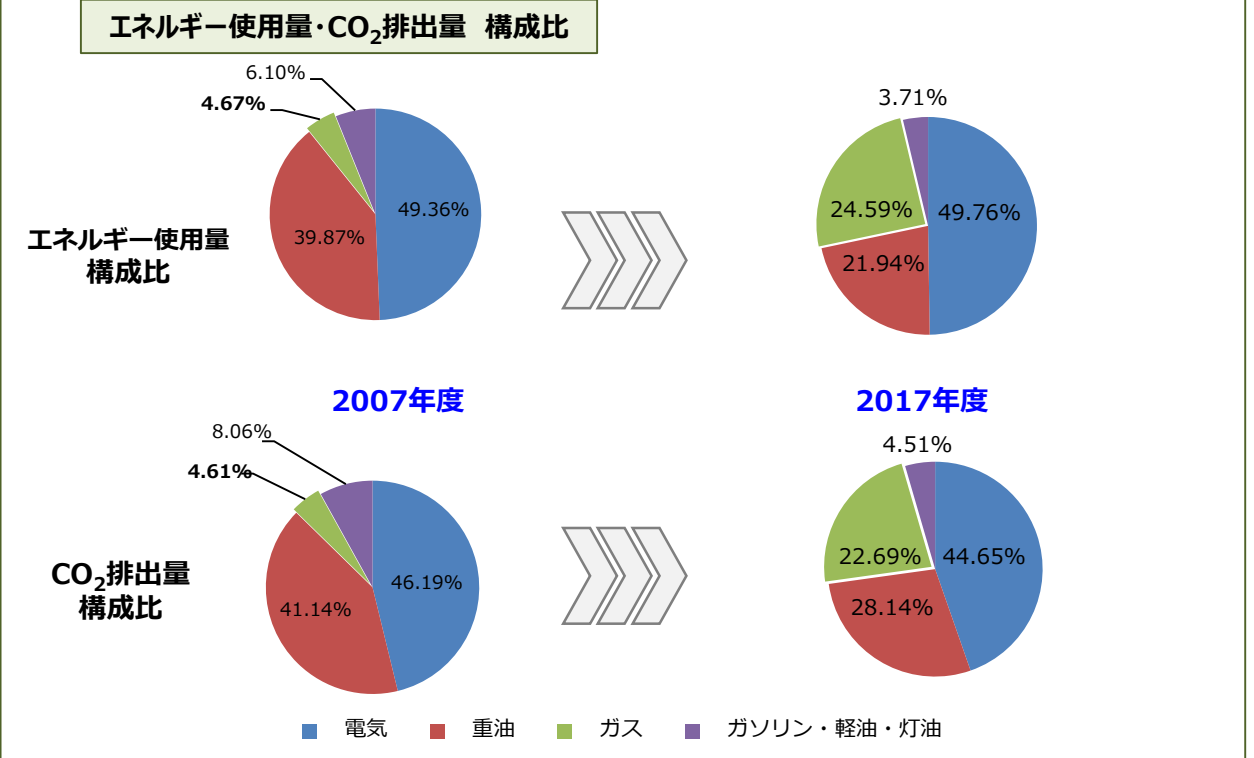
## エネルギーの有効活用と節約の継続推進

2017年度は、エネルギー使用割合の高い建物の本格稼働もあり、前年度と比較して総エネルギー使用量は減少となりました。また、二酸化炭素排出係数が低値の電気事業者から買電を行った結果、CO<sub>2</sub>排出量も減少となりました。さらに、昨年に引き続いて、省エネの啓発活動を行いました。



## エネルギー転換の推進

CO<sub>2</sub>総排出量削減のため、暖房のための熱源である重油を、天然ガス(13A)へ燃料転換を実施しています。そのため、2007年度に比べ、天然ガス(13A)の使用量が増加し、重油使用量が減少しています。2017年度には、エネルギー使用量構成比で、ガス使用量が約5%から約25%になり、重油及び灯油から天然ガスへのエネルギー転換を行いました。



### 換算係数等

エネルギー使用量換算係数

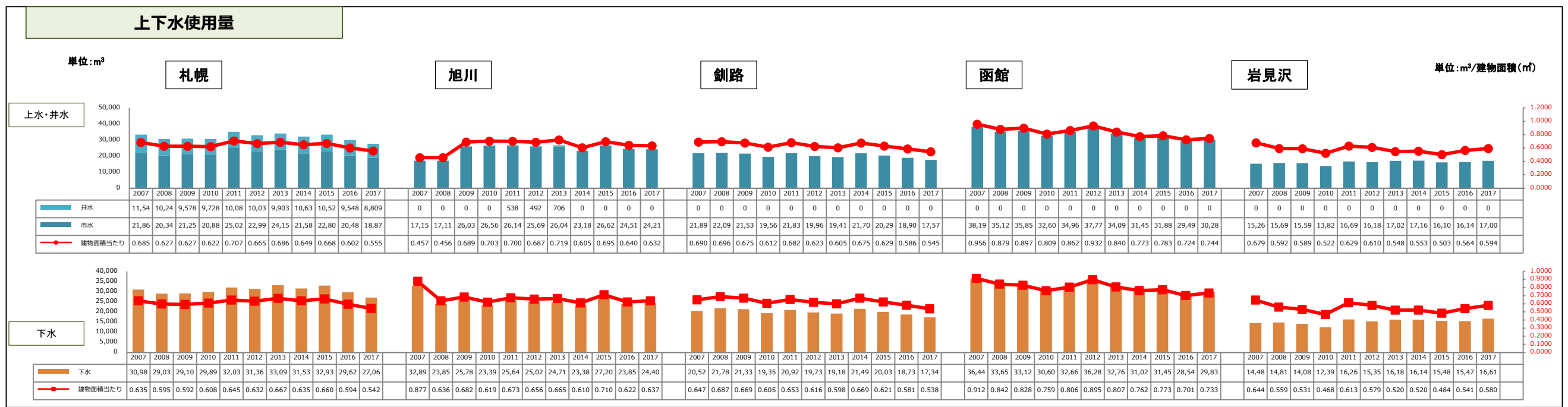
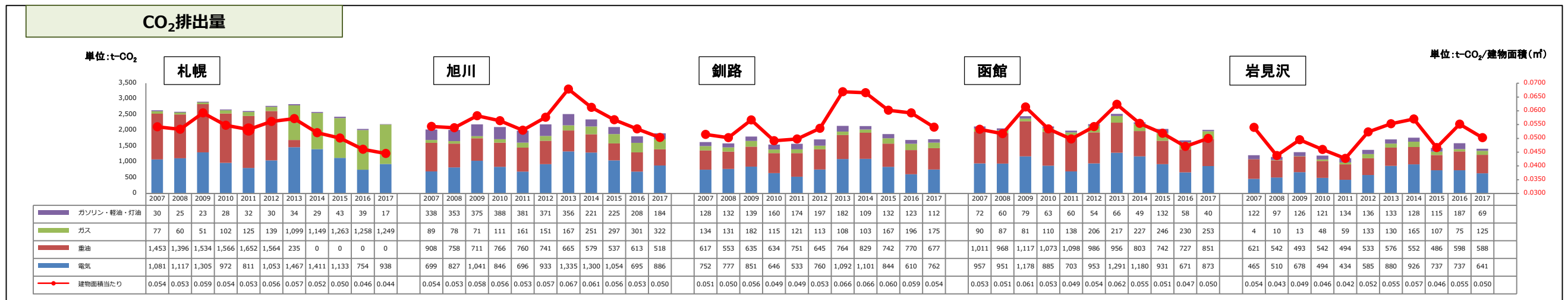
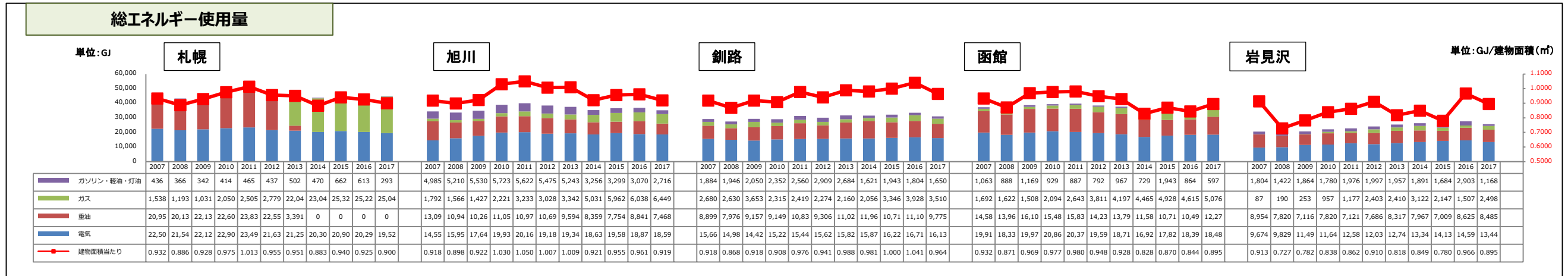
種類	換算係数	単位
電気	9.97	GJ/Mkwh
重油	39.10	GJ/kl
都市ガス(6C, 5C)	20.90	GJ/Mm <sup>3</sup>
都市ガス(13A)	45/46	GJ/Mm <sup>3</sup>
LPGガス	50.80	GJ/t
ガソリン	34.60	GJ/kl
軽油	37.70	GJ/kl
灯油	36.70	GJ/kl

換算係数は、環境報告書ガイドラインを参照(都市ガスについては、供給事業者のデータを参照。)

CO<sub>2</sub>排出量換算係数(報告年別)

種類	換算係数											単位
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
電気	0.479	0.517	0.588	0.433	0.353	0.485	0.688	0.678	0.683/0.454	0.669/0.480/0.365	0.632/0.476/0.557/0.454/0.628	t-CO <sub>2</sub> /Mkwh
重油	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	2.710	t-CO <sub>2</sub> /kl
都市ガス(6C/5C)	1.042	1.042	—	—	—	—	—	—	—	—	—	t-CO <sub>2</sub> /Mm <sup>3</sup>
都市ガス(13A)	2.299	2.299	2.299	2.299	2.299	2.299	2.299	2.244/2.294	2.244/2.294	2.244/2.294	2.244/2.294	t-CO <sub>2</sub> /Mm <sup>3</sup>
LPGガス	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	2.999	t-CO <sub>2</sub> /t
ガソリン	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	2.322	t-CO <sub>2</sub> /Mkl
軽油	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	2.585	t-CO <sub>2</sub> /kl
灯油	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	2.489	t-CO <sub>2</sub> /kl

換算係数は、環境報告書ガイドラインを参照(電気及び都市ガスについては、供給事業者のデータを参照。)





## 1 下水の検査と管理の状況

区分	検査と管理の現状				
	対象	検査と内容	検査回数	検査結果	
札幌校	下水道	大学系統最終放流口	水質検査	年2回	適合
旭川校	下水道	最終放流口	水質検査	年1回	適合
函館校	下水道	2号館系	水質検査	年1回	適合
		8号館系	水質検査	年1回	適合
		厚生会館系	水質検査	年1回	適合

## 2 有害化学物質の管理と廃棄の状況

### 各種化学薬品類

有害物質 名称	容器の 形状	分類	保管 状況	処理等	管理記録	特別管理産業廃棄物 管理責任者の選任
札幌校 廃試薬・ 廃液等	専用容器	クロム・シアン・ その他	屋内 分別	2017年7月, 9月, 10 月, 及び11月 業者処理	実験廃液処理 依頼伝票	契約グループ総括係長 講習修了者
旭川校 廃試薬・ 廃液等	専用容器	クロム・汚泥・廃 酸・その他	屋内 分別	2017年6月, 10月, 2018年2月 業者処理	処理依頼伝票	各研究室 使用責任者
釧路校 廃試薬・ 廃液等	専用容器	汚泥・クロム・シア ン・その他	屋内 分別	2017年9月, 10月, 業者処理	処理依頼伝票	財務グループ係長 講習修了者
函館校 廃試薬・ 廃液等	専用容器	有機・無機・亜鉛・ クロム・シアンその 他	屋内 分別	2017年10月 業者処理	実験廃液処理 依頼伝票	財務グループ係長 講習修了者

※ポリ塩化ビニル廃棄物（PCB）について  
 本学では高濃度PCB機器類については2015年6月までに処理済み、また低濃度PCB機器類については2016年2月までに処理済み

## 3 廃棄物の処分量

固形廃棄物 分別区分	札幌校		旭川校		釧路校		函館校		岩見沢校	
	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位
可燃ゴミ	110	m <sup>3</sup>	622	m <sup>3</sup>	22,445	kg	644.7	m <sup>3</sup>	185.9	m <sup>3</sup>
不燃ゴミ	-		303	m <sup>3</sup>	-		13.9	m <sup>3</sup>	0.3	m <sup>3</sup>
粗大ゴミ	10	m <sup>3</sup>	-		-		-		9	m <sup>3</sup>
産業廃棄物	74,580	Kg	13,860	Kg	5,574	kg	954.2	Kg	18.5	m <sup>3</sup>
							192	ℓ		
産業廃棄物 (OA機器類)	241	台	-		82	台	34	台	1,330	Kg
放置自転車の 処分量	66	台	-		60	台	-		-	
その他	-		-		-		(紙類)2,440	Kg	(蛍光灯) 166	kg

## 4 リサイクル量

札幌校			旭川校			釧路校			函館校			岩見沢校		
品目	数量	単位	品目	数量	単位	品目	数量	単位	品目	数量	単位	品目	数量	単位
古新聞	3,070	kg	資源ゴミ	177	m <sup>3</sup>	古新聞	510	Kg	資源ゴミ	94.8	kg	家電 (テレビ)	2	台
ダンボール	4,820	kg	家電 (テレビ)	8	台	古雑誌	5,520	Kg	ダンボール	1,080	Kg	家電 (冷蔵庫)	5	台
OA紙 古雑誌	20 22,280	kg	家電 (冷蔵庫)	3	台	資源ゴミ	9,200	Kg	古新聞	1,080	Kg	容器包装ブラ	4.5	ℓ
シュレッダー紙	5,160	kg	金属くず	9,010	Kg	家電 (テレビ)	3	台	古雑誌	3,060	Kg	ペットボトル	35.8	m <sup>3</sup>
びん・缶・ベッ トボトル	136	m <sup>3</sup>				家電 (冷蔵庫)	4	台	鉄くず(H2)	740	Kg	空きビン	3.1	m <sup>3</sup>
資源化ゴミ	366	m <sup>3</sup>				家電 (洗濯機)	1	台	鉄くず(H3)	1,520	Kg	空き缶	10.4	m <sup>3</sup>
家電 (テレビ)	27	台									金属くず	5.2	m <sup>3</sup>	
家電 (冷蔵庫)	6	台									廃プラスチック	2	ℓ	

## 5 環境保全コスト

分 類	内 容	コスト額
(1) 事業エリア内コスト		円
(1) - 1 公害防止コスト	大気汚染防止・水質汚濁防止・その他公害防止のためのコスト等	4,370,787
(1) - 2 地球環境保全コスト	地球温暖化防止・省エネルギーのためのコスト等	9,022,201
(1) - 3 資源循環コスト	資源の効率的利用・廃棄物のリサイクル、処理、処分のためのコスト等	21,127,906
(2) 管理活動コスト	環境情報開示・緑化、美化、景観保持の環境改善対策のためのコスト等	9,359,188
(3) 研究開発コスト	環境保全に資する・環境負荷の抑制のための研究開発コスト等	-
(4) 社会活動コスト	事業（所）に直接的に関係のない社会活動におけるコスト等	545,879
(5) 環境損傷対応コスト	自然修復・環境保全に関する損害賠償のためのコスト等	297,000

# 環境教育活動の取り組み

## 1. 2017年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組

### (札幌校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
札幌校	臨海実習	木村 賢一 高久 元	本実験は、海産無脊椎動物および海藻類に関して、野外で採集を行い生きている材料をもとに、それらの形態的特徴や多様性を学ぶ。また、海産動物の受精の瞬間や初期発生の上胚観察など発生に関して学ぶ貴重な機会である。
	野外実習	渡部 英昭 並川 寛司	野外活動を中心とした実習であり、植物および菌類（キノコ）の同定・分類技術を身につける実習である。
	物理学特論II	尾関 俊浩	雪氷の物理学的特性に関わる内容を詳述することにより、自然現象の物理学的把握、その応用性を涵養することを目的に置く。内容は雪氷物性のみならず雪氷の諸現象を含む。
	環境教育活動1 A	野村 卓	学校教育において学校農園管理、環境美化活動、教科指導等に取り組むときに想定される農業体験や栽培体験に関する基礎的な知識を身につけるための講義と実習を行う。
	大気科学		日常生活と深く関わる大気現象を理解する上で基礎となる大気科学を学ぶ。大気の鉛直構造、オゾン層の破壊、大気の安定・不安定、降水粒子の成長、大気における放射、温室効果、大気循環など
	地学演習 I	高橋 庸哉	日常生活と結び付いた猛暑や大雨に関連する話題を地球温暖化やヒートアイランド、都市気候などと絡めて学習する。地球温暖化の実態とメカニズム、ヒートアイランドの特徴、都市気候、局地風、広域ヒートアイランド。猛暑、大雨など。
	自然科学入門		人類にとって、最も身近で不可欠な空気、地球を取り巻く大気、その中で起こる様々な大気現象。本講義では、これらを取り上げます。身近であるので、小中学校教員になった時に大いに役立ちます。実験演示では、児童・生徒の五感に訴え、科学に対する興味・関心を高める実験を紹介します。
	地学概論I	岡村 聡	地球惑星を含む太陽系について、主として元素の化学的性質を取り上げながら、恒星や隕石の性質をもとに解説する。地球がどのような歴史を経て現在の生命をはぐくむ惑星になってきたのかを考え、地球環境の成立過程とその歴史性について学ぶ。
	現代地域教養2(環境経営学)	浅木 洋祐	環境経営は経済と環境を両立する企業活動を目指すものである。今日の企業は社会に有益な財・サービスの提供や、雇用などの経済面で貢献するのみならず、環境・社会への貢献が求められている。気候変動を始めとする地球環境問題の顕在化や、持続可能な発展の登場と普及によって、1990年代後半以降に急速に普及した環境経営は、現代の企業経営において欠かせないキーワードの一つといえる。本講義では、環境問題と企業経営の歴史的展開と環境経営をめぐる理論（企業の社会的責任論、社会的費用論など）、環境経営を実践するマネジメント技術（環境マネジメントシステム、ライフサイクルアセスメントなど）について、ケーススタディーを交えながら学習する。
	環境科学実験I C	並川 寛司 渡部 英昭 木村 賢一 高久 元	森林、河川など様々な環境における動植物の野外調査を中心に、調査方法、同定の方法、データ処理などの技術の習得を目指すとともに、環境と生物の関わりを学ぶ。
地誌学	武田 泉	地理学の一分野である地誌学についての理解を目指す。地誌学は地域地理学とも呼ばれ、地域毎の比較や場所の違いに焦点を当てて考察していくもの。地域特性の把握は、学校教育のみならず一般社会での日常生活行動、地理的なセンスとも大いにかかわる。まず地理学の中での地誌学の位置付けや地誌の様々なスケールについて取り上げその後「同心的拡大説」に応じた地域の実像を追う。その後、地図の利用や海外事情（サハラ等ロシア極東）についても触れることにする。講義と共に一部は現地でも体得したり、地理的・地誌的な興味関心分野についての発表・報告も行う。地域の環境の理解に必要な地域理解のリアリティのため、地域で生じる時事問題を適宜扱うことになる。	
教育フィールド研究 IV *F		社会科に関連した、社会科見学や野外実習を想定した諸活動を、実体験と関連情報の収集により、自ら調べること、教員や社会人として必要な能力や知識を身に付ける。 林業体験（道民の森、一部茨戸川緑地）草刈り、除伐、枝打ち等の一連の作業の一部を体験ほか	
化学と地球の環境	菅 正彦	地球環境の化学についての基礎的な講義を行なう。（宇宙の中の地球、地球のすがたと環境問題等）	
野外環境教育学特別演習	能條 歩	自然体験教育を環境教育の一環として考える場合、社会教育と学校教育のどういった場面で実施するかが重要なポイントとなる。学校教育の内容を規程するのが社会（市民）であるとするならば、市民が環境教育的な視座から現状を認識するための素養を持っていないければ、適切な学校教育は行われないう。一方、社会（市民）が環境教育的な視座から現状を認識するためには、公教育（学校教育）において適切な環境教育が行われる必要があるはずである。これまで環境教育が体系的に実施されてこなかった現状を考えれば、このことは社会教育と学校教育の両方において、両者をつなぎつつどういった教育活動を展開すべきかを示すことが喫緊の課題となっていることを示す。 この演習では、長期の自然体験教育の目的論や学習内容についての議論や、野外教育（環境教育）において不可欠な、しかし現状では取り扱いが不十分と考えられる発達段階に即した自然環境教育の体系化に焦点を当て、上述の課題に関する考察を行なう。	

### (旭川校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
旭川校	教育フィールド研究1（地域教育支援）	川邊 淳子	旭川市内・近郊などの地域教育に対する支援活動 *自然保護や国際交流などへの支援活動など  従来の教育フィールド研究1の中に、地域教育連携的な要素を含むものとして新設したものである。J A北海道ならびにあさひかわの協力のもと、稲作体験塾を中心に食育および食農教育に関する基礎的・基本的知識や技能などを身につけ、将来の学校教育における専門的学習の基礎を築いていくものとする。
	環境教育基礎論	相馬 一彦 橋野 晶寛	私たちは、当たり前のように呼吸し、飲食、排泄などを繰り返していますが、それらを支えているすべてのものが環境であるということをつい忘れがちになります。生の根源を見つめ直すことが環境問題を考える礎であり、そこを見逃しては、着実な環境教育は実行されません。富良野自然塾の「環境教育プログラム」を通して環境を実感することで、将来、教師として環境教育に携わる際の基礎的な視点の獲得を目指します。
	環境地球科学	和田 恵治	現在の地球環境を大局的に知るためには、地球の歴史だけでなく現在の地球物質の循環や自然の成り立ちを理解することが重要である。本講義では、地球システムを概観したあとに、地球温暖化問題（気候変動）、自然災害（地震、気象、火山噴火）、地球の水の起源、日本海と日本の自然（身近な自然環境の成立）、地球の変遷と人類史（とくに過去1万年間）、ジオパークの理念と地球環境の5つの項目に焦点をあてて地球環境を学ぶ。

### ■ 雪から広がるさまざまな学びのサポート～北海道雪プロジェクトの取り組み（北海道教育大学札幌校理数教育専攻 高橋 庸哉 教員）

期 間：通年

場 所：札幌市立新琴似北小学校ほか

実 施 者：高橋庸哉教員(北海道教育大学札幌校)

#### 【実施内容】

・北海道雪プロジェクトの活動を通して、以下の教育現場での授業作りをサポートした。

- 学習資料集「札幌市の雪対策～雪害から暮らしを守る」の制作
- 実践ワーク型テキスト「寒い季節を快適に」の制作
- Webコンテンツ「雪をプレゼンしよう」及び「ビデオで紹介・雪の実践」を実施制作
- 教員向け「雪の学習研究会」（1月26日札幌市立新琴似北小で開催、参加者83名）実施
- 小学生が行った雪に関する調べ学習の成果を発表する、「雪と暮らしのおはなし発表会（3月3日、札幌市主催）に協力
- 出張授業実施（市内小学校2校）及び降雪観察キットの貸出し

### ■ 茨戸川緑地や道民の森での林業体験（育樹・草刈・伐倒、他の各種体験）の実施（北海道教育大学札幌校社会科教育・総合学習開発専攻 武田 泉 教員）

期 間：通年

場 所：茨戸川緑地、道民の森

実 施 者：武田 泉教員(北海道教育大学札幌校)

本学当研究室において、林業体験は既に20年以上の歴史を有する。当初は岩見沢校において、当時の道庁空知支庁や岩見沢森づくりセンターの協力を得て、地理学関連講義や1年次用基礎的講義の一環として、現場見学や林業体験を実施するようになり、教員免許状更新講習でも行うようになった。

担当者が札幌校に異動後も、茨戸川緑地管理事務所（北海道造園コンサルタント㈱）や道民の森管理事務所、道庁林務部、札幌市みどりの推進課等の協力の下、大学裏に位置する札幌市が管理する茨戸川緑地で、岩見沢校時代から引継ぎ、地理学関連講義やフィールド科目の一環として、また教員免許状更新講習でも、学生向け、学校教員向けに、現場見学や林業体験を継続的に実施している。本格的な体験内容については、道民の森へ大学バスで出かけて実施している。教員免許状更新講習では珍しい、座学ではない現場実習であるため毎年人気があり、必ず道外からの参加者を迎えている（沖縄・兵庫・神奈川・千葉等）。なお本年度はこれらの活動について、国土緑化推進機構の「グリーンウエーブ2018」（URL<http://greenwave.undb.jp/>）にも応募を行った。



## (2017年度の学部における主な環境関連科目の開設状況 及び 特色ある環境教育活動・取組) (旭川校・釧路校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
旭川校	生物学野外実習	今村 彰生	野外活動の基本的な手法とその留意点を学ぶとともに、標本作成法と標本の意義に関する知識を得る。昆虫については、その多様性を少なくとも目もあるいは科レベルで認識する能力を体得すると共に、その様々な採集方法や取り扱いにおける注意事項を身につける。
	技術教育と環境	秋葉 治克 小泉 匡弘	中学校学習指導要領の技術分野の内容構成のうち、特に「Bエネルギー変換に関する技術」を取り上げ、一次エネルギーから二次エネルギーへの変換過程において、発電所が環境に及ぼす影響について論じる。また、電気を無駄使わず省エネ化を推進するにはどのようにすべきかを受講生とディスカッションを行う。 人類の科学技術の進歩にともない地球上で起きているあらゆる環境問題について、受講生一人につき20分間(受講生数によって時間の増減あり)のプレゼンテーション、5分間の質疑応答を行う。
	現代と社会	角 一典	社会人としての基礎的素養として、現代の深刻な問題である、食糧とエネルギーをめぐる状況に対する興味関心を深めることを第一義とし、さらに、前社会人の模範となるべき教員としての資質を向上させる一助とする。
釧路校	地域教育活動Ⅰ	宮前 耕史 平岡 亮 諫山 邦子 北澤 一利	本講義は、「地域教育」の専門性(知識・技能・態度・資質等)を高めていくための地域教育分野の基礎科目である。 「地域教育」とは何か、なぜ「地域教育」なのか、「地域教育」を推進していく上で果たすべき学校・教員の役割とは何か、そうした役割を果たしていく上で必要とされる教師の専門性(知識・技能・態度・資質等)とはどのようなものか、そしてそれを高めていくために、私たちにどのような取り組み(学習・研究活動)が必要とされるのか。 本講義では、上記のような事柄について、「地域教育」に関する理論を踏まえつつ、「地域教育」の先進事例に学びながら実地に考えていく。 「地域教育」の先進事例として、十勝郡浦幌町で推進される「うらほろスタイルふるさとづくり計画」をとりあげる。とりわけ、その一環として同町立全小学校児童を対象に実施されている「浦幌バスツアー」「民泊体験」を「子どもの立場」に立って体験し、地域の人々の学校・教師に対する期待も肌で感じながら、「地域教育」の専門性を高めていくための基礎的視座を獲得する。
	環境教育活動Ⅱ	大森 享 平岡 俊一 野村 卓 伊原 禎雄	本科目は、環境教育分野教員全員による共同担当講義である。前半の5回の授業で「ガイダンス」「子どもと環境授業」「動物、生態系と環境授業」「社会と環境授業」「栽培と環境授業」について教員が講義する。中盤5回は、ゼミ集中形式で地域環境を題材とした「環境体験活動」を行う。後半5回で、各学生が選択した題材に関する環境教育授業プランの模擬授業およびそれを受けての検討会を行う。模擬授業に際しては、毎回教員が司会・指導・補足説明を行う。最後に個人レポートを提出する。
	環境リテラシー	野村 卓	地域や世界規模の環境問題の解決に貢献できるような環境教育を進めていくためには、「環境とは何か」「環境問題とは」「環境問題の原因」についての知識を整理し、構造化し、さらに「環境と人間との関係」への深い考察を試みる事が不可欠である。このような試みを行い、意思決定に生かしていく知的能力のこと「環境リテラシー」と定義する。この講義を通して、学生が環境リテラシーを身につけ、それを自ら磨き上げていくための方法に慣れることが期待される。前半の8回の授業で、「持続可能な開発のための教育(ESD)と環境教育」「子どもと環境教育」「地域の生態系」「環境問題と人間活動」について教員が講義を行なう。後半の6回では、提示された環境問題や環境教育にかかわる課題群の中から小グループ(2, 3人)の学生が選択した課題についての「ミニリサーチ」(調査活動と自らの意見形成のための調査データの分析検討を行なうこと)の成果を発表してもらい、全員でディスカッションを行い、個々の課題間の結びつきや、問題解決のあり方、環境教育の役割等についての意見を交換する。その際、毎回2名の教員が司会と指導および補足説明を行う。最終日には全体を通じた総合討論を行い、教員がまとめを行なう。
	地域社会と環境	平岡 俊一	地域社会における環境問題・保全活動を社会的に分析・考察する考え方について学んだ上で、それに環境経済学や地域社会学、都市計画などの視点も加えて、実際に地域社会における環境保全に関する取り組みの具体策、担い手、体制などについて考えることを目的とします。講義全体を通して、環境保全を通じた地域社会の変革・発展の可能性についても考えていきます。
	エコウォッチング		生物は季節に応じて変化する。この授業では生物の季節的変化を希少な生物が息づく釧路湿原と身近な春採湖にてこうした生物の季節変化を観察し、環境と生物との関係や生態系の構造変化についての生態学的な知識を深めることを目的とする。
	山岳生態学実習	伊原 禎雄	北海道には優れた自然環境が多く残されている。特に山岳地域にはそうした環境が多く、標高の違いに応じて様々に変化する。本授業では北海道にある代表的な山岳地域にて生態学的観点に基づいた動植物観察を主体とした実習を行う。
	現代の科学と思想Ⅳb(保全学)		環境保全の意識や適正な行動を定着するには学校教育でのESD(持続可能な開発が可能な教育)の浸透が重要となる。持続可能な社会の構築にはESDに沿って環境問題に対応するにはリスクと開発とのバランスの意義を認識し、その上で保全を基盤とした環境利用を目指すまたは問いかけの必要がある。そこで教育者には環境科学的視点から客観的に環境問題の本質を理解・認識する能力が求められる。この授業は教育者を目指す学生を対象として、環境問題を広く取り上げ、リスクと開発とのバランスを図る意義を様々な例を通して学ぶとともに保全を基盤とした将来的な環境利用の在り方を模索することで問題の本質を理解・認識する能力の涵養をはかる。 1回の授業構成は、①事前に調べてきた課題内容をグループでとりまとめる、②まとめをグループごとに発表、③教員による総括と次回の課題についての説明、となっています。

### ■ 釧路校美術教育研究室(一財)前田一步園財団研修を実施

(釧路校 美術教育研究室)

期 間：2017年6月1日  
場 所：前田一步園財団(釧路市阿寒町)

#### 【実施内容】

美術教育研究室が毎年春に実施する校外研修活動において、阿寒湖畔の自然保全団体(一財)前田一步園財団を訪問し、財団が阿寒湖の自然と地域産業および文化に果たしてきた重要な役割について学習した。当日は、平素は開放されていない前田記念館(旧前田光子邸)のリビングに案内され、現理事長の新井田利光氏より財団の歴史的経緯や事業の特色についての講話を受けた。

### ■ 皆既月食観測会の実施

(釧路校 地学研究室)

大気保全の啓発や大気環境の観察を踏まえて、2018年1月31日に皆既月食の観測会を実施しました。今回の皆既月食は、国内ではおよそ3年ぶりになります。

観測は釧路校の天体観測室で行い、午後8時過ぎから翌2月1日午前0時過ぎまで観測しました。当日は学生10名程の参加があり、学生たちから「本当に赤いね〜」、「赤い月から地球を見たらどう見えるんだろう?」などの感想があがりました。



## (2017年度の学部における主な環境関連科目の開設状況及び特色ある環境教育活動・取組)

### (函館校・岩見沢校)

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
函館校	環境経済学	浅木 洋祐	本講義では、主として環境経済学の枠組みから、さまざまな環境問題を取り上げて学んでいく。環境問題がどのようにして発生して、深刻化・多様化したのか、そして環境問題に対してどのように取り組みが行われてきており、今後、どのように取り組むべきなのか。本講義を通して、受講者が環境経済学についての基本的知識を身につけることによって、地域の観点から適切に環境問題を理解し、行動できるようにすることを目指す。
	現代地域教養3(世界の環境問題)	田中 邦明	世界各地で発生している代表的な環境問題の背景と解決取り組み事例を紹介しながら、それら環境問題発生の原因とメカニズムについて解説し、環境問題の自然科学的および社会科学の2つの側面から問題解決の困難性や深刻化する理由についての理解を深める。
	環境教育		環境教育の必要性と目的を自然科学および社会科学の両側面から理解し、学校や地域において持続可能な社会を実現するための実践理論や子どもの発達段階に見合った環境教育の代表的な手法について講義する。
	環境科学入門	田中 邦明 松浦 俊彦	地球規模で発生しつつある環境問題を解決・予防するための学問として成立してきた環境科学の目的と諸分野、環境問題の発生と持続のメカニズム、環境問題の解決戦略について論ずる。
	基礎環境物理学	高橋 伸幸	物理学では全ての観測可能な現象を模型の振る舞いとして記述します。このような記述の導入として、身近に観察・実験できる様々な運動や波を模型的に表現する活動を通して、現象と図形/数式/計算手続きの相互関係に慣れることを目指します。この活動を通して、自然の事象・現象を物理学的に探求出来る可能性に気付いて興味を持ち、主体的探求活動(目標設定/実験/分析/報告発表)を継続する力を養い、その能力と態度を身につけ、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。
	基礎環境化学1(基礎環境化学)	中村 秀夫	さまざまな環境問題を化学的に正しく理解するのに必要な化学の基礎知識を講義する。
	地域環境科学概論5(物理学概論)	竹中 康之	講義を通じてさまざまな環境問題を物理学的に正しく理解するために必要な物理学の基礎知識および物理学的思考法を学習する。
	環境緑化論	村上 健太郎	日本の自然環境、地球環境において緑化学が果たす役割について解説する。また、緑化が引き起こした環境問題を取り上げ、人間社会と自然環境の健全な関わり方について検討する。
	環境倫理学	後藤 嘉也	科学技術が高度に進展し、種々の地球環境問題―環境汚染、自然破壊、原子力発電所事故なども含む―が緊急のものとなり、持続的発展可能な社会のあり方が問われている現代において、地球という自然と人間との関係がどのように変わっているか、どのように変わらなければならないかについて、地球の有限性、自然の権利、世代間倫理などに注目しながら、考える。
	生命環境基礎実験	三上 修	目的 (1)生物学、生命科学、環境学に関する知識を、単に知識として持つだけでなく、よく観察してみる、あるいは、実験してみることで、より深める。(2)地域の自然環境および地域の環境問題についても理解する。(3)生物学特有のデータのばらつきを理解する。(4)ばらついたデータの解釈の仕方を学ぶ。(5)パソコンをつかった基本的なデータ処理、統計解析を学ぶ。
	自然	山田 亮 尾藤 弥生 坂巻 正美	「自然」をテーマに、音楽・美術・体育というツールを通して体感する。また、文化的側面から「自然は人間文化と対峙するという見方」や「自然のなかに文化的模範を見つけるべきとする見方」といった自然観について検討するとともに、環境教育的側面から「エコロジー」・「環境問題」をキーワードに自然についての理解を深める。
	野外環境教育概論	前田 和司 能條 歩 山田 亮 濱谷 弘志	野外教育と環境教育の国内外における動向について講義する。
	自然体験活動	山田 亮 濱谷 弘志	夏季の森林・山岳環境下において、3泊4日のキャンプ生活をしながら、沢登りやトレッキング、オリエンテーリング、環境教育アクティビティなど、体験学習法の理論を導入した自然体験プログラムを体験的に学ぶ。
野山のフィールド経験	登山経験を通じて、野山の自然環境に触れることで、自然について興味や見識を深める。また、登山活動に必要な知識や技術を習得し、これからのアウトドア活動の基礎を学ぶ。		
岩見沢校	自然誌の読み解き	能條 歩	北海道の自然の特質を概観するとともに、北海道に見られる動植物・地形・地質などの学習や見学(現地野外講義)を通して、環境の動的平衡、自然現象と自然災害、災害に対する心構え、などについても考える時間を持ち、今の北海道の自然環境がどのようにしてできあがってきたのかを学ぶ。
	環境問題と科学		地球規模で発生している環境問題について、自然科学的な視座から学ぶ。
	環境社会学	前田 和司	アウトドア・アクティビティ、自然体験活動を通じて、自然と共生した生活を創造するためには、環境問題や人と自然の関係のあり方を理解し問い直すことが重要である。本講義では、環境社会学の理論と具体的な事例研究を紹介しながら、それらを理解するための方法を説明する。
	野山のフィールド経験実習 I・II	濱谷 弘志 前田 和司 能條 歩 山田 亮 Jones Ted	・主に野山における野外活動の指導に必要な事柄を学ぶために、ベースとなる体験活動を充実させ、長期間バックカントリーで生活できるスキルを学習する。 ・自然環境においてなるべくインパクトを与えないような知識と技術を身につける。 ・長期間のバックカントリーキャンプを通して、「人間が自然に与えるインパクト」「意図的でない自然の改変」「日常生活のエネルギーと資源への依存」などについて考える。
	自然体験プログラム実習 I・II	能條 歩 山田 亮	プロジェクトWILD、Project Learning Tree、ネイチャーゲームなど、自然体験学習や環境教育に関するパッケージプログラムの体験学習を通して、自然を楽しく学ぶ方法論について学ぶ。

### ■ 「渡島大沼青年環境サミット2017」の実施

(北海道教育大学函館校 地域教育専攻 田中 邦明 教員)

共 催：北海道教育大学函館校、道南支部高校環境教育研究会  
期 間：2017年10月25日～ 10月26日  
場 所：大沼国際セミナーハウス（七飯町字大沼町）

#### 【実施内容】

**学習：**ESD「持続可能な未来のための教育」プログラムとして、大沼国際セミナーハウスを会場に、高校生21名、本学学生6名、高校教員9名、合計36名を対象に、バス巡検によって渡島大沼とその周辺地域の優れた自然・環境・産業の特性について学習するとともに、渡島大沼とその流入河川の水質調査を実施し、大沼で発生しつつある環境問題である富栄養化による水質汚濁の現状と想定される原因について学習した。

**成果：**高校生と大学生が大沼の環境問題の解決方法をロールプレイ手法による討論によって検討し、大沼地域の自然環境と社会の持続的発展を展望する「大沼湖沼環境宣言2017」を策定した。

**広報：**策定した本サミットの開催と大沼湖沼環境宣言の内容は、北海道新聞、函館新聞によって報道されるとともに、北海道知事および七飯町長あてに提出した。



「シラバスの検索」、 「学部・大学院の紹介」は下記のアドレスを参照ください。

URL : <http://www.hokkyodai.ac.jp/faculty/>



## 2. 2017年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組

### (附属札幌小学校, 附属札幌中学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属札幌小学校	ふぞくのもりをたんけんしよう	1	生活科	24	
	あさがおをそだてよう	1	生活科	28	
	なにがみえるかな	1	道徳	1	
	水の中の生き物を見つけよう	2	生活科	12	
	水ぞくかんをひらこう	2	生活科	12	
	やさいをそだてよう	2	生活科	27	
	ほたる	2	道徳	1	
	植物を育てよう	3	理科	9	
	植物の育ちと花	3	理科	2	
	白神山地	3	道徳	1	
	あいの里緑道	3	総合	30	
	季節と生き物	4	理科	24	一部、学生による授業
	じいちゃんが教えてくれたこと	4	道徳	1	
	伝えたい、水の恵み	4	総合	16	
	水はどこから	4	社会科	10	
	私たちを支える国土の環境	5	社会科	16	
	私たちを支える自動車工業	5	社会科	23	
	かしこい消費者	5	家庭科	5	
	一ふみ十年	5	道徳	1	
	附属札幌中学校	食を極める	5	総合	25
クリーン大作戦		6	家庭科	6	
生き物どうしのかかわり		6	理科	9	
生き物のすむ環境		6	理科	5	一部、学生による授業
季節に合わせ快適に暮らそう		6	家庭科	12	
愛華さんからのメッセージ		1	道徳	1	
幻の魚は生きている		1	国語科	4	
モアイは生きている		2	国語科	4	
環境保全と北海道のエネルギー		2	社会科	3	
地球環境問題		3	社会科	2	
資源エネルギーのかたよる分布		2	社会科	2	
環境保全と日本のエネルギー		2	社会科	3	
環境保全と世界のエネルギー		3	社会科	3	
水資源の保全について		3	社会科	3	
光と音		1	理科	1	
身のまわりの物質とその性質		1	理科	4	
身のまわりの物質(プラスチックと環境)		1	理科	1	
光合成と呼吸(酸素と二酸化炭素の環境)		1	理科	1	
運動とエネルギー(エネルギー資源と利用)		3	理科	4	
科学変化と原子・分子		2	理科	4	
天気とその変化	2	理科	2		
生命の連続性	3	理科	5		
運動エネルギー	3	理科	3		
自然と人間	3	理科	5		
科学技術と人間	3	理科	2		
化学変化とイオン	3	理科	6		
地球と宇宙	3	理科	7		
科学技術と人間	3	理科	15		
技術の進歩と生活・地球環境の関わり	1	技術・家庭科	3		
エネルギー変換に関する技術	2	技術・家庭科	4		
身近な消費生活と環境	2	技術・家庭科	6		
住生活と自立(環境に配慮した生活)	1	技術・家庭科	3		
衣生活と自立(環境に配慮した生活)	2	技術・家庭科	3		
What is the most important to you?～環境問題	3	英語科	7		
The 5Rs to Save The Earth	3	英語科	7		
「附属中の花壇を整備しよう」(学校宿泊学習)	1	特別活動	3		
環境保全をテーマにした調査	1	総合的な学習の時間	2		
環境保全をテーマにした調査	3	総合的な学習の時間	2		

### (附属旭川幼稚園)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属旭川幼稚園	野菜を作るう	全学年	-	春～秋	大学、小学校との連携
	幼稚園探検	全学年	-	春	
	ご近所探検	4～5歳児	-	春～秋	小学校との連携
	虫取り	全学年	-	春～秋	
	見つけた自然物を使って遊ぼう	全学年	-	春～冬	
	壁面づくり	全学年	-	春～冬	
	音で遊ぼう	全学年	-	2日	大学教員、学生との連携
	英語で遊ぼう ～季節のこと～	4～5歳児	-	1日	英語講師による指導

#### ■ 5年生総合「食を極める」(2017年6月～12月実施 附属札幌小学校)

野菜作りを通して「食」について学習する、5年生総合「食を極める」の学習です。2017年度より、児童が野菜について調査したり、様々に試したり、試行錯誤しながら育てていく学習を展開しています。春～秋にかけて取り組んだ成果をまとめ、それを保護者や他学級などにプレゼンを行います。食に対する意識や環境に対する興味を高めることに繋がっています。

#### ■ 4年生 南極クラス(2018年1月30日実施 附属札幌小学校)

ミサワホームと北海道学校生活協同組合による教育支援プログラムの一環として、南極クラスが実施されました。昨年度に引き続き4年生を対象とし、実際に南極で観測を経験した越冬隊員の方が講師として来校し、南極の自然や越冬隊員の生活についての話をいただきました。

#### ■ ペットボトルキャップ回収、リングプル回収、牛乳パックリサイクル、地域の清掃活動、クリーンプロジェクト(校舎中庭に花壇を造ろう)

**実施者：附属札幌中学校(厚生委員会, リサイクル委員会 1年生等)**

**実施期間：通年(清掃活動は学級活動の1時間)**

- ・生徒会厚生委員会の活動として、生徒が自主的に、「ペットボトルキャップ回収活動」及び「リングプル回収活動」に取り組んでいます。箱を設置し、自宅から持ってきたものを回収しています。集まったものは、寄附しています。
- ・リサイクル委員会では、給食の牛乳パックの回収を行い、それをティッシュペーパーに交換し、各学級に再配布しています。
- ・地域の清掃活動については、1年生が総合学習の一環として実施しています。
- ・クリーンプロジェクトは、1学年学校宿泊学習の活動の一環として実施しています。



## (2017年度の附属学校における主な環境教育の実施状況及び特色ある環境教育活動・取組)

### (附属旭川小学校, 附属旭川中学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携	
附属旭川小学校	世界遺産 白神山地からの提言	5	国語科	15		
	はたらく人とわたしたちの暮らし	3	社会科	18		
	健康なくらしとまちづくり	4	社会科	23		
	生活環境を守る人々	5	社会科	14		
	生き物をさがそう	3	理科	5		
	チョウを育てよう	3	理科	5		
	植物を育てよう	3	理科	8		
	虫を調べよう	3	理科	7		
	風やゴムのはたらき	3	理科	9		
	電気の通り道	3	理科	9		
	こん虫調べ	3	理科	3		
	季節と生き物	4	理科	7		
	夏と生き物	4	理科	6		
	秋と生き物	4	理科	7		
	冬と生き物	4	理科	6		
	生き物の1年	4	理科	3		
	流れる水のはたらき	5	理科	13		
	生き物とかんきょう	6	理科	6		
	ものの燃え方と空気	6	理科	11		
	植物の体	6	理科	9		
	土地のつくりと変化	6	理科	12		
	電気の利用	6	理科	12		
	はるとなかよし	1	生活科	7		
	なつとなかよし	1	生活科	9		
	あきとなかよし	1	生活科	10		
	ふゆとなかよし	1	生活科	14		
	大きく育てばくとわたしの〇〇〇	1	生活科	22		
	つくってあそぼう	1	生活科	15		
	みんなでそだてよう	2	生活科	19		
	夏を楽しもう	2	生活科	10		
	秋を楽しもう	2	生活科	16		
	冬を楽しもう	2	生活科	11		
	昔のあそびで友達をふやそう	2	生活科	15		
	じょうずに使おう物とお金	5	家庭科	3		
	寒い季節を快適に	5	家庭科	6		
	はじめてみようクッキング	5	家庭科	10		
	暑い季節を快適に	5	家庭科	6		
	クリーン大作戦	6	家庭科	4		
	共に生きる生活	6	家庭科	9		
	くふうしようおいしい食事	6	家庭科	11		
	目指せ!!エコロジー名人	4	総合的な学習の時間	25		
	※図画工作科においては、作品を作る際の材料として廃品の利用や学習後の処理等について指導します。					
	附属旭川中学校	ペットボトルキャップとリングプル回収によるリサイクル運動	全学年	生徒会活動	随時	
		環境地図づくり	1	社会科(地理)	6	大学からの依頼
		資源エネルギーと産業	2	社会科(地理)	2	
		環境問題への取組	3	社会科(公民)	1	
		地球規模の環境問題	3	社会科(公民)	1	
これからの資源・エネルギー		3	社会科(公民)	1		
環境の負荷が小さい発電方法		3	理科	3		
身近な環境の調整		3	理科	2		
環境と人間の活動		3	理科	2		
環境と保全		3	理科	1		
科学技術の利用と自然環境の保全		3	理科	3		
環境や資源を考えた生活		3	技術・家庭科(家庭分野)	10		
生活や産業の中で活用される技術の評価		1	技術・家庭科(技術分野)	2		
目的や制約条件に応じた物づくり		1	技術・家庭科(技術分野)	16		
目的に応じた生物育成		2	技術・家庭科(技術分野)	7		
Water Problems	2	英語科	12			
健康と環境	2	保健体育科	8			
親子ボランティア	全学年	行事	随時			

### (附属釧路小学校, 附属釧路中学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数
附属釧路小学校	春がいっぱい	2年	生活科	4
	秋がいっぱい	2年	生活科	4
	虫を調べよう	3年	理科	4
	健康なくらしとまちづくり～水はどこから	4年	社会科	4
	流れる水のはたらき	5年	理科	2
	生き物と環境	6年	理科	4
	エゾシカ肉を使った学校給食	全学年	特別活動(食育)	
附属釧路中学校	花いっぱい運動	1～2年	特別活動	2
	材料と加工に関する技術を未来に生かそう	1年	技術・家庭科	1
	エネルギー変換に関する技術の評価・活用	3年	技術・家庭科	10
	生物育成に関する技術	2年	技術・家庭科	8
	身近な消費生活と環境	2年	技術・家庭科	6
	住生活と自立	1年	技術・家庭科	3
	衣生活と自立	2年	技術・家庭科	3
	remake-restyle	3年	美術科	6
	花の形に秘められたふしぎ	1年	国語科	1
	ガイアの知性	2年	国語科	5
	水の山 富士山	2年	国語科	1
	メディア・情報を編集するしかけ	3年	国語科	3
	世界の諸地域	1年	社会科	30
	資源・エネルギーと産業	2年	社会科	10
	環境問題や環境保全を中核とした考察	2年	社会科	4
	産業を中心とした考察	2年	社会科	4
	現代の日本と世界	3年	社会科	4
	持続可能な社会の実現に向けて	3年	社会科	4
	植物の世界	1年	理科	4
	大地の成り立ちと変化	1年	理科	5
動物の世界と生物の変遷	2年	理科	9	
エネルギー変換と利用	3年	理科	5	
自然と人間	3年	理科	20	
科学・技術の発展と環境の保全	3年	理科	2	
Water Problems	2年	英語科	10	



### ■ 親子ボランティア (通年 6月・12月に各学年1回実施 附属旭川中学校)

学年毎に校内外の清掃やボランティア活動を計画し実施しました。実施に当たっては、保護者と連携を図り、毎回、各学年約50名の保護者に参加していただき、親子が協力し合いながら、和気あいあいと取り組みました。今年度は主に、清掃に使用するための雑巾縫いを行ったり、敷地周辺のゴミ拾いを行ったりしました。

今後もPTAとの連携に努め、環境美化を主体とした活動を継続していく予定です。

### ■ 阿寒湖畔における前田一歩園財団との環境教育プロジェクト (附属釧路小学校)

(2017年5月下旬～11月下旬, 2年生は年2回, 3年生以上は年1回, 学級毎の実施)

「一人でも多くの方が自然の恵みを末永く享受できるよう、北海道の自然環境の保全とその適正な利用をすること」を目的に設立された前田一歩園財団の協力を得ながら、阿寒湖畔をフィールドとした自然体験活動を行いました。第2学年では、1人1本クワエゾマツの苗を植樹しました。第3学年では、「昆虫を観察したり、生息している環境を調べたりする活動」を行いました。第4学年では、「水が地面から湧き出しているところ＝川のはじまり」を見付ける活動を行いました。第5学年では、流れる水のはたらきの学習を行いました。第6学年では、エゾシカによる食害を防ぐための「樹木のネット巻き」体験(巻き直し体験)を実施しました。



## (2017年度の附属学校における主な環境教育の実施状況 及び 特色ある環境教育活動・取組)

### (附属函館幼稚園, 附属函館小学校, 附属函館中学校, 附属特別支援学校)

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属函館幼稚園	おおきくなあれ	3～5歳児			
附属函館小学校	お花をそだてよう	1	生活科	9	
	秋とともだち	1	生活科	8	
	やさいをそだてよう	2	生活科	8	
	ホウセンカをそだてよう	3	理科	10	
	こんちゅうをそだてよう	3	理科	8	
	季節と生き物	4	理科	3	
	葉がしげるころ	4	理科	4	
	葉が色づくころ	4	理科	4	
	発芽と成長	5	理科	8	
	花から実へ	5	理科	4	
	ものの燃え方と空気(大気)	6	理科	11	
	水溶液の性質(水質)	6	理科	12	
	電気の利用(エネルギー)	6	理科	10	
	健康なくらしとまちづくり(ゴミ, 水)	4	社会科	21	
	環境を守る人々	5	社会科	11	
	季節に合わせて快適にくらそう	6	家庭科	8	
	はだしの広場で楽しもう・本の読みかせ	全			
	はだしの広場で楽しもう・青空給食	全			
	白神山地からの提言	5	国語科	12	
函館山への提言	5	国語・総合	10		
附属函館中学校	エネルギー変換に関する技術	2年	技術	20	
	地球環境問題	3年	社会	2	
	資源エネルギーのかたよる分布	2年	社会	2	
	光と音	1年	理科	1	
	身のまわりの物質とその性質	1年	理科	4	
	物質と状態変化	1年	理科	1	
	大地の変化	1年	理科	1	
	電流	2年	理科	4	
	動物の生活と種類	2年	理科	1	
	化学変化と原子・分子	2年	理科	4	
	天気とその変化	2年	理科	2	
	生命の連続性	3年	理科	5	
	運動エネルギー	3年	理科	3	
	化学変化とイオン	3年	理科	6	
地球と宇宙	3年	理科	7		
科学技術と人間	3年	理科	15		
ガイアの知性	2年	国語	5		
附属特別支援学校	牛乳パックをリサイクルしよう	小学部	作業学習	16	
	牛乳パックをリサイクルしてはがきをつくらう	中学部	作業学習	140	
	アルミ缶をリサイクルしよう	中学部	作業学習	141	
	アルミ缶をリサイクルしよう	高等部	作業学習	105	
	地域のごみ拾いをして分別しよう	中学部	作業学習	12	
	野菜を育てよう	高等部	生活実践	30	
漁網をリサイクルしよう	高等部	進路・作業	105		

## ■ 「おおきくなあれ おいしくなあれ」 (北海道教育大学附属函館幼稚園)

本園では全クラスが野菜の栽培と生き物の飼育をしています。年長組は菜園でジャガイモやニンジン育て、収穫し、宿泊保育でカレーに調理します。年中組・年少組はプランターにイチゴやミニトマトやキュウリ等を植え、水やり当番等のお世話をしっかりしています。次々と実をつけているキュウリは、お弁当の時間にみんなで板ずりして食べると、苦手な子でも、おかわりをして食べ、家庭でも「幼稚園の野菜はおいしい」と話しているようです。生き物は、メダカ、おたまじゃくし、クワガタムシ、スズムシ等を飼育しています。お世話をしながら虫に触れ、足の感触などを楽しんでいます。



## ■ 「北海道遺産函館山からの提言」

(2017年7月～9月実施 北海道教育大学附属函館小学校 第5学年)

総合的な学習の時間で行っている函館山に関する学習を生かして「提言」(国語科の「説明文」+「書くこと」の単元である)を行いました。白神山地の自然や環境を守るための「提言」を書く目的に向かって、さまざまな種類の資料から情報を読み取り、整理・交流することで考えや根拠を広げたり深めたりしました。教科書教材「世界遺産白神山地からの提言」を参考にしながら「世界遺産白神山地への提言」を作成し、第二段階として「北海道遺産函館山からの提言」を書くために、身近な函館山の自然や環境保護への取り組みを調べました。

そして、実際に函館山に行き、体験的に自然を感じたり、学芸員の話や聞きなどして、調査を進め、「提言」を仕上げました。

また、2018年度の修学旅行では、実際に白神山地へ足を運び、トレッキングを行うため、そのための事前学習を2017年度の3学期に行い、白神山地の自然について調べました。

附属学校園についての詳細は下記のアドレスを参照ください。

URL : <http://www.hokkyodai.ac.jp/attached/>

## ■ 2017年度 夏季及び冬季の節電対策について

北海道教育大学 環境保全推進本部

2017年度の電力需給対策などを議論する政府の「電力需要に関する検討会合」において、節電の目安として具体的な数値目安を伴う節電要請はありませんが、省エネルギー対策の取り組み推進を依頼されています。

このことを受け本学では、環境保全推進本部において検討した結果、2016年度に引き続き、**夏季10%以上・冬季8%以上**の節電目標を設定し、教育研究及び業務等に支障がない範囲で、節電対策を実施することとなりました。

節電量に応じた照明器具の消灯台数やパソコンの省エネ設定、暖房便座等の電気機器の使用制限など、節電量を積み上げた「節電ロードマップ(案)」を作成し、本学で消費電力量の約4割強をしめる照明器具については、照度計にて各室の明るさを計測するなどして、必要な明るさを確保したうえで、間引き(消灯)するなど行いました。

パソコンについては、ディスプレイの輝度設定による消費電力の状況を計測するなどして、必要最低限の明るさとなるよう配慮しました。また、節電対策が確実に実施されるよう、定期に節電点検を実施しました。

また、2012年度より各キャンパス受電設備にデマンド監視装置を設置し、電力の「見える化」を図り、情報公開の一端として、節電状況について大学の取組を発信し、また、使用状況が把握できるようホームページに各校の電力使用状況を掲載してきました。

その結果、大学全体では 夏季は **7.4%\***、冬季は **6.7%\***の節電となり、いずれも目標値には及ばないものの、節電対策の効果が表れている結果となりました。

※各月平均値

## ■ 2017年度節電対策内容

<b>節電対象</b>	全学(附属学校、学生寄宿舍等含む全ての施設)		
<b>節電期間</b>	夏季	2017年 7月 1日	～ 2017年 9月30日
	冬季	2017年 12月 1日	～ 2018年 3月31日
<b>節電目標</b>	2010年度同月の最大需要電力(kw)を基準		
	夏季： <b>10%以上</b> 、冬季： <b>8%以上</b> 、その他の期間： <b>5%以上</b>		

## 節電対策

- 意識啓発**  
節電ポスターの掲示  
電力使用状況の公表
- 節電目標に対応した節電ロードマップ(案)の作成及び実行**
- 節電チェックリストを利用した節電点検の実施**
- 空調・暖房設備** 空調機の温度設定を見直す  
クールビズ・ウォームビズを実施し、室温設定を見直す
- 照明設備** 必要照度を確保して照明器具の間引き  
可能な限りLED電球への交換  
使用していないエリアの消灯の徹底  
昼休みの室内消灯の徹底
- 空調、照明設備以外の設備** 暖房便座を節電モードに設定  
洗面所ハンドドライヤーの使用中止  
パソコン(ディスプレイ含む)の省エネモードへの設定及び未使用時の電源オフ  
エレベータの使用制限  
上1階、下2階の移動はエレベータの使用を原則禁止し、出来るだけ階段を利用
- 全学で夏季一斉休業の実施** 2017年8月14日～16日



## ■ 本学ホームページに各キャンパス電力使用量を掲載



## ■ 2017年度 その他の環境保全活動

### ・キャンパスクリーンの実施

環境保全活動の一環として、各キャンパスにおいて教職員・学生により構内の清掃や講義室等の清掃等を行いました。

札幌校では春季の2017年6月2日及び秋季の10月27日に行われ、学生及び教職員が協力し、約1時間ほどかけて、構内のゴミ拾いを行いました。また、通学路(歩道)の清掃を5月25日に行いました。

旭川校では同年6月23日及び10月27日に行われ、学生と教職員が春に約810名、秋に約700名ほど参加して実施しました。

釧路校では同年6月30日に、函館校では7月7日に、岩見沢校では5月27日及び10月7日にそれぞれ大学周辺の構内清掃等を行いました。





■ 紙パックほか資源回収活動  
(北海道教育大学旭川校 生活協同組合旭川支部)

本活動は、北海道教育大学生生活協同組合旭川支部による資源回収であり2007年度から開始し、現在も継続中の活動である。

①紙パック、②インク・トナーカートリッジ、③わりばし、④PETボトルキャップ、⑤ボタン電池の5品目を対象に北海道教育大学旭川校舎内に回収箱を設置し、学生等に回収協力の周知を行っている。

紙パック回収実績					
	1ℓ	500ml	他	合計	累計
～2008年度	448	134	0	582	
2009年度	252	249	20	521	1103
2010年度	122	145	13	280	1383
2011年度	98	75	3	176	1559
2012年度	166	101	5	272	1831
2013年度	92	69	9	170	2001
2014年度	276	115	13	394	2395
2015年度	456	117	5	558	2953
2016年度	254	87	10	351	3304
2017年度	263	53	14	330	3634

PETボトルキャップ回収実績		
	回収数	累計
2008年	2062	2062
2009年	6226	8288
2010年	12575	20863
2011年	13522	34385
2012年	13100	47395
2013年(含14年1月)	12777	60172
2014年(除1月)	9851	70023
2015年	10462	80485
2016年	9562	90047
2017年	7842	97889

わりばし回収数(膳)		
	回収数	累計
2008年	4862	4862
2009年	19943	24805
2010年	21538	46343
2011年	21672	68015
2012年	20799	88814
2013年	17980	106794
2014年	14684	121478
2015年	11993	133471
2016年	9144	142615
2017年	9489	151301
2018年1月	803	152104

■ 省エネ活動による循環型省エネサイクル構築の取組について

【省エネ活動の成果を教育研究・省エネ改修へ還元する循環型省エネサイクルの構築】

「活動」、「成果」、「還元」による循環型省エネサイクルを構築するため、省エネ活動によって削減した光熱水料予算(成果)を、設備の更新及び教育研究活動へ還元する「循環型省エネルギー活動促進経費制度」を創設し、2017年度より運用を開始している。

本制度は、省エネ活動による予算の削減実績(見込)額の50%を前年度の削減実績に基づきインセンティブ予算として各キャンパスへ配分し、残りの50%を省エネ改修に充当する。前者のインセンティブ予算は、省エネ活動に対する成果として学生・教職員へ還元することで省エネ意識を醸成し、後者の省エネ改修は、キャンパス間における設備上の差の解消を図ることで、競争性を確保している。



■ 北海道教育大学札幌校及び旭川校の学生が「稲作体験塾」に参加しました

協力：JAグループ北海道

期間：2017年6月1日(札幌校)、2017年5月28日(旭川校)

場所：江別市内及び旭川市内の稲作農家

実施者：北海道教育大学札幌校、旭川校

【実施内容】

稲作体験塾は授業の一環として実施しており、札幌校の活創造教育専攻学生の「教育フィールド研究Ⅳ」として開設されているもので生活創造教育1年生21名、2年生24名が参加しました。また、旭川校では同校の学生37人が参加しました。



■ 花壇・プランターの設置を実施しました

期間：2017年4月中旬～10月下旬

場所：正門から教職員玄関(旭川校構内)

実施者：北海道教育大学旭川校



【実施内容】

本活動は、環境保全事業の一環として、中央棟前・音楽棟前の花壇に花苗を植え、また、正門から教職員玄関にかけて花苗のプランターを設置し、通学する学生のみならず、本キャンパスを訪れる市民の方の目を楽しませるなど、環境保全に関する教育環境の創出に貢献するものである。



## 地域貢献

本学には、様々な専門分野の教員がおり、その研究活動は多岐にわたり、各種審議会委員や講演会の講師、地域の環境活動等を積極的にを行っています。これら教員の研究活動から、環境保全及び環境教育に関わる教員の地域貢献を次に示します。

### 1 各種審議会委員

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	嶋崎 倭司	教授	岩見沢市公害対策審議会委員	岩見沢市	2015.10.7～2017.9.30
			岩見沢市公害対策審議会委員	岩見沢市	2017.10.1～2019.9.30
	今 尚之	准教授	北海道環境パートナーシップオフィス事業評価委員会委員	環境省北海道地方環境事務所	2015.7.1～2018.3.31
	鈴木 明彦	教授	石狩市文化財保護審議会委員	石狩市	2016.5.1～2018.4.30
	高橋 庸哉	教授	札幌らしい特色ある学校教育推進検討プロジェクト委員	札幌市教育委員会	2017.5.12～2018.3.31
	並川 寛司	教授	河川水辺の国勢調査アドバイザー	北海道開発局 開発建設部	2017.5.22～2018.3.31
	百瀬 響	教授	石狩市文化財保護審議会委員	石狩市	2016.5.1～2018.4.30
札幌校	森田 みゆき	教授	札幌市環境教育基本方針推進委員会委員	札幌市	2016.4.1～2018.3.31
			北海道環境審議会委員	北海道	2016.12.16～2018.3.31
			さっぽろ環境賞選考委員会委員	札幌市	2017.8.23～2018.2.28
旭川校	安藤 秀俊	教授	旭川市緑の審議会委員	旭川市	2016.8.1～2018.7.31
	奥寺 繁	講師	旭川市環境審議会委員	旭川市	2017.4.24～2019.4.23
	角 一典	教授	旭川市ごみ減量等推進優良事業所認定審査会委員	旭川市	2017.8～2017.11.15
	川邊 淳子	教授	北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	北海道教育委員会	2015.5.15～2020.3.31
	佐々木 謙一	教授	旭川市廃棄物減量等推進審議会委員	旭川市	2015.6.1～2017.5.31 2017.6.1～2019.5.31
	八重樫 良二	教授	旭川市景観審議会委員 旭川市景観アドバイザー	旭川市	2016.9.24～2018.9.23 2016.10.30～2018.10.29
釧路校	平岡 俊一	准教授	釧路市廃棄物減量等推進審議会委員	釧路市	2015.11.1～2017.10.31 2017.11.1～2019.10.31
			釧路市環境審議会委員	釧路市	2015.12.8～2017.12.7 2017.12.8～2019.12.7
			釧路市地球温暖化対策地域協議会委員	釧路市	2016.12.17～2018.12.16
			浜中町環境審議会委員	浜中町	2016.4.1～2018.3.31
			釧路湿原自然再生協議会委員	釧路湿原自然再生協議会運営事務局	2017.6.1～2018.11.30
森 健一郎	准教授	北海道エネルギー教育地域会議運営委員会委員	(公財)日本科学技術振興財団	2017.5.18～2018.3.31	
函館校	浅木 洋祐	准教授	函館市廃棄物処理施設整備基本計画検討委員会委員	函館市	2016.7.1～2017.7.31
	池ノ上 真一	准教授	函館市都市景観審議会委員	函館市	2017.6.27～2019.6.26
	根本 直樹	教授	函館市都市景観審議会委員	函館市	2015.6.27～2017.6.26
			函館市都市景観審議会委員	函館市	2017.6.27～2019.6.26
	三上 修	准教授	函館市環境審議会委員	函館市	2015.12.1～2017.11.30
函館市緑化審議会委員			函館市	2017.2.2～2019.2.1	
函館市環境審議会委員			函館市	2017.12.1～2019.11.30	
岩見沢校	能條 歩	教授	北海道環境教育等推進協議会委員	北海道	2015.7.16～2017.7.15
			岩見沢市公害対策審議会委員	岩見沢市	2015.10.1～2017.9.30 2017.10.1～2019.9.30

### 2 講演会の講師

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	鈴木 明彦	教授	“とまこまいふるさと海岸”におけるビーチコーミング学習指導	苫小牧信用金庫	2017.6.3
旭川校	角 一典	教授	COOL CHOICEトークイベント講師「道北・旭川で実践しよう COOL CHOICE」～気候変動による食糧問題と地球温暖化対策～	旭川市	2017.9.16
	和田 恵治	教授	特別授業講師「大雪火山群の形成と大雪山の自然環境の成り立ちについて」	滝川高等学校	2017.6.16
スーパーサイエンスハイスクール事業講師「旭岳の自然環境について」			旭川西高等学校	2017.7.20	
釧路校	平岡 俊一	准教授	講演会「日本の環境政策」持続可能な地域づくりの観点から考える再生可能エネルギー導入のあり方・講師	国立大学法人北海道大学	2017.4.21
			第25回環境自治体会議しほろ会議 講師	第25回環境自治体会議しほろ会議実行委員会	2017.5.25
			くしろ消費者大学 講師(内容「再生エネルギーを巡る現状について」)	釧路消費者協会	2017.7.8
			「Low Carbon Forum」【真駒内まちづくりシンポジウム】パネリスト	(特非) エコ・モビリティ サッポロ	2017.10.21 2017.10.22
			第1回三重県地域版低炭素塾 講師(内容:地域資源を活用した地球温暖化対策について)	三重県環境生活部	2018.1.16
函館校	田中 邦明	教授	山口県地域版低炭素塾 講師(内容:地球温暖化対策促進のための自治体政策と中間支援組織の役割)	山口県環境生活部	2018.2.1
			環境学習会 外部講師	北海道七飯高等学校	2017.11.28
岩見沢校	能條 歩	教授	環境学習発表会 外部講師	北海道七飯高等学校	2018.1.23
			「西区環境教育リーダー」養成講習会ファシリテーター	札幌市西区市民部地域振興課	2017.6.24
岩見沢校	能條 歩	教授	「札幌市林間学校40周年記念フォーラム」講師	札幌市教育委員会	2017.10.21

### 3 他大学の非常勤講師

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	佐々木 胤則	教授	非常勤講師(生活環境論)	札幌保健医療大学	2017.4.1～2017.9.30
旭川校	今村 彰生	准教授	生態学	京都造形芸術大学	2017.4.1～2018.3.31
			環境科学	旭川医科大学	2017.4.6～2017.9.30
釧路校	伊原 禎雄	教授	客員研究員(研究課題:両生類に対する放射線等の影響評価)	(独)国立環境研究所	2017.4.1～2018.3.31
岩見沢校	能條 歩	教授	保育内容(環境と健康)	藤女子大学	2017.9.14～2018.3.10
			保育内容(環境)	札幌国際大学短期大学部	2017.9.29～2018.3.31

### 4 地域の環境活動及び啓発活動

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	並川 寛司	教授	[自然環境保全基礎調査植生調査]北海道ブロック調査会議への参画	環境省自然環境局生物多様性センター	2017.8.17～2018.3.31
			北海道建設部専門員登録	北海道	2017.8.23～2018.3.31
釧路校	平岡 俊一	准教授	くしろソーシャルデザインネットワーク理事(活動目的:環境保全、再生可能エネルギー等を基調とした持続可能な地域づくりに寄与する事業の展開)	(一社)くしろソーシャルデザインネットワーク	2017.6.1～2019.3.31
	伊原 禎雄	教授	国立公園等における再生可能エネルギーの効率的導入促進のための自然環境等イベントリ整備推進委託業務のうち、釧路湿原に関する情報提供	(株)建設環境研究所	2017.12.8～2017.12.20
函館校	田中 邦明	教授	函館市温暖化防止市民講座パネルディスカッションコーディネーター	公益財団法人北海道環境財団	2017.11.23
岩見沢校	能條 歩	教授	(公社)日本シェアリングネイチャー協会指導者養成委員会委員	(公社)日本シェアリングネイチャー協会	2017.5.15～2018.3.31
			プログラム集検討委員会アドバイザー	(公財)北海道環境財団	2017.9.29～2018.3.31



環境省「環境報告書ガイドライン2012」との対照表

項目	掲載ページ
<b>基本的事項</b>	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	巻頭
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	巻頭
(3) 報告方針	8
(4) 公表媒体の方針等	35
2. 経営責任者の緒言	1
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	8
(2) K P Iの時系列一覧	-
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	8
4. マテリアルバランス	10~13
<b>「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標</b>	
1. 環境配慮の取組方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の取組方針	8
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	9
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	8
(2) 環境リスクマネジメント体制	8
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	9,14,15
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	16~27
(2) 環境に関する社会貢献活動等	16~27,29~33
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	-
(2) グリーン購入・調達	9
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	-
(4) 環境関連の新技術・研究開発	16~21
(5) 環境に配慮した輸送	-
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	6,7
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	15
<b>「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標</b>	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	10~13
(2) 総物質投入量及びその低減対策	10~13
(3) 水資源投入量及びその低減対策	10~13
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	13
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	-
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	10~13
(3) 総排水量及びその低減対策	10~13
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	14,15
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	14,15
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	14,15
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	14
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	16~27
<b>「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標</b>	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	-
(2) 社会における経済的側面の状況	-
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	28,29
<b>その他の記載事項等</b>	
1. 後発事象等	-
2. 環境情報の第三者審査等	-

ホームページによる情報公開

北海道教育大学では、環境報告書をホームページ上で参照できるようにしています。  
 (下記アドレスから「大学紹介」→「刊行物・広報誌」→「環境報告書」を選択してください。)  
 2011年度報告書より、環境報告書の公表媒体は環境を配慮し、冊子による公表・配布は控え、ホームページのみの公表としました。

本学ホームページ: URL: <http://www.hokkyodai.ac.jp/>



環境報告書

- [環境報告書-2016年-](#) (2.94 MB)
- [環境報告書-2015年-](#) (5.07 MB)
- [環境報告書-2014年-](#) (4.51 MB)
- [環境報告書-2013年-](#) (3.02 MB)
- [環境報告書-2012年-](#) (3.09 MB)
- [環境報告書-2011年-](#) (13.24 MB)
- [環境報告書-2010年-](#) (5.98 MB)
- [環境報告書-2009年-](#) (2.02 MB)
- [環境報告書-2008年-](#) (2.23 MB)
- [環境報告書-2007年-](#) (1.30 MB)
- [環境報告書-2006年-](#) (1.04 MB)
- [環境報告書-2005年-](#) (503.56 KB)

